

老泣ろうきゆう（梁川星巖やながわせいがん）

老泣無聲湿客衣 天涯兄弟信來稀  
半肩行李兩鬢雪 滿望雲山何處歸

老泣ろうきゆう 声こえ 無なく 客衣かくいを 湿うるおす

解説 老いた自分を嘆いた詩。

天涯てんがいの 兄弟けいてい 信しん 來きたること 稀まれなり

語釈 ※湿うるおす。しめらせる。※客衣かくい 旅行中の着物。旅着。  
※天涯てんがい 天の果て。極めて遠いところ。※信しん 便り。手紙。※行李こうり  
 旅人の手荷物。

半肩はんけんの 行李こうり 兩鬢りょうびんの 雪ゆき

通釈 老いの嘆きは、声を放つて泣くほど激しくはないが、旅の衣

滿望まんぼうの 雲山うんざん 何れいずの 処ところにか 帰かえらん

の袖をしつとりとさせる。遠く離れてしまった私の所には兄弟からの便りも稀まれである。肩にする手荷物も重く、兩の髪も雪のように白くなつてしまった。はるかに見渡せば、雲や山が果てしなく連なっているが、はて、これから私は何処いずに帰つたら良いのであろうか。